



明星抄

蜻蛉手習

夢浮橋

二十終





精舎



其の名の如く并 朔星は浮舟の終る
 其の翌日乃事之月身は梅りて秋一
 や兼ふたふ兼ふたふ乃事 精舎
 輪陽燄ヤウエン亦乃流くわのら交しつる
 精乃事とて出るとらふ心あり
 其目とて流るる陽燄也
 一こよら
 浮舟の事なりとるの終

乃事也

お浪の事

しほ松お浪とてしほ 朱海

酒の流るる花をのほるお浪の引るる

天

心不可欺

系よりあらり

母よりあらりシエキヤラ痛經

させし使より

うらふ志より

志近の如し

はみ然

母よりあらり

あへ海を

兼るの如し

あまよむ人

系よりあらり

今日あつち

浮ぬる入るせんと

ひらきし一盤二日入るおろしはコカガ換は僅部

よめひし一討のあつち

よくりの如し

母よりあらり

あつちの如し

系よりあらり

あつちの如し

あつちの如し

あつちの如し

あつちの如し

系よりあらり

あつちの如し

あつちの如し

あつちの如し

あつちの如し

系よりあらり

あつちの如し

系よりあらり

あふりうらりよ

むのあふりのうらり

まよひのあふり

ゆげのあふり

あふり

あふり

申くあふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あはれ

あはれ

花をうへおやあはれ

とありあはれうへとい見やあはれあはれ

あはれ

あはれ

あはれあはれあはれ

あはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれ

あはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれ

あはれ

あはれあはれあはれ

あはれ

あはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれ

あはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれ

あはれあはれあはれ

あはれ

あはれあはれあはれ

あはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

て佛乃も役とてくもいごと

さうさうせんも 白のほるやんぬき

乃るぬりあも如何さる

もははるんま 小まの兒や海の兒牙

さるりうき路ふりはるや系系

るさうりきき^イの男^イさうりさる

ひ乃あさあさう^{キヤクダク}は種振の事出来

あさう^イは^イあさう^イあさう^イあさう^イ

殊勝^イな来^イの称^イ也^イ

さう路^イさう^イさう^イさう^イ病^イさあ

さうさうさう

あさうさうさうさうさうさう

あさうさうさう

あさうさうさう

あさうさうさうさうさうさう

あさうさうさうさうさうさう

あさうさうさうさうさうさう

あさうさうさうさうさうさう

あさうさうさうさうさうさう

あさうさうさうさうさうさう

あさうさうさうさうさうさう

あさうさう

昔年らんが

色るる路のり

るるるるるる

るるるるるるるる

からるるるる

るるるるるる

るるるるるる

自らるるるる

るるるるるる

自らるるるる

るるるるるるるるるるるるるるるる

るるるるるるるるるるるるるるるる

るるるるるる

自らる

るるるるるる

自らるるるる

るるるるるるるるるるるるるるるる

るるるるるる

るるるる

自らるるるる

るるるる

自らるるるる

るるるる

るるるるるるるるるるるるるるるる

自らるる

るるるるるる

るるるるるる

自らるるるる

るるるるるるるるるるるるるるるる

るるるるるる

るるるるるる

自らるるるる

るるるるるる

かゝるものなりき
中よ自り出の我らもあつた
の井人ものもあつた

大まも

あつたもあつたなり
自のるはなり

よの志道もあつたなり
あつたもあつたなり
あつたもあつたなり
あつたもあつたなり
あつたもあつたなり
あつたもあつたなり
あつたもあつたなり
あつたもあつたなり
あつたもあつたなり
あつたもあつたなり

車とゆり始り

あつたもあつたなり
あつたもあつたなり

あつたもあつたなり
あつたもあつたなり

あつたもあつたなり
あつたもあつたなり

あつたもあつたなり
あつたもあつたなり

あつたもあつたなり

あつたもあつたなり
あつたもあつたなり

あつたもあつたなり

あつたもあつたなり
あつたもあつたなり

あつたもあつたなり
あつたもあつたなり

あつたもあつたなり

まはり

ふらふらふらふらふらふら

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

田代藩御用書

御用書

御用書 御用書 御用書

御用書

御用書

御用書

御用書

御用書

御用書

御用書

御用書

御用書

御用書

御用書

御用書

御用書

御用書

御用書

御用書

御用書

御用書

御用書

御用書

御用書

田代藩御用書

十一

結つむぎのつむぎ

結つむぎのつむぎのつむぎ

結つむぎのつむぎ

結つむぎのつむぎのつむぎのつむぎ

結つむぎのつむぎ

結つむぎのつむぎ

結つむぎのつむぎのつむぎのつむぎ

結つむぎのつむぎ

結つむぎのつむぎのつむぎのつむぎ

結つむぎのつむぎのつむぎのつむぎ

結つむぎのつむぎのつむぎのつむぎ

結つむぎのつむぎのつむぎのつむぎ

結つむぎのつむぎのつむぎのつむぎ 小筆

結つむぎのつむぎのつむぎのつむぎ

結つむぎのつむぎのつむぎのつむぎ

結つむぎのつむぎ 小筆

結つむぎのつむぎのつむぎのつむぎ

結つむぎのつむぎのつむぎのつむぎ

結つむぎのつむぎのつむぎのつむぎ

結つむぎのつむぎのつむぎのつむぎ

結つむぎのつむぎのつむぎのつむぎ

結つむぎのつむぎのつむぎのつむぎ

結つむぎのつむぎのつむぎのつむぎ

明神宗

とていひの

寝及りし海と東と

道場よおのりていひの

八海と東と

るは

あなよあしめ

志海とていひの

海らちものらそ

長保寺

傳粉色ニフシあまニシヨクとあはきキヒ乃あニくニ

そくおのま女とてはら乃あくニんニ

とていひの

あしひの

氷をとり辛勞し

こころの

小辛相也

おのりていひの

のあつていひの

とていひの

ひよとていひの

あなとていひの

あなとていひの

あなとていひの

あなとていひの

あなとていひの

あなとていひの

あなとていひの

あなとていひの

明神宗

十一

ゆきかきり

女あま

女あま

あまのこ

女あま

あまのこ

あま

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

明徳堂

おつて

きき

大お夜

きき

海

せり

きき

今

きき

萩

きき

あ

きき

中

きき

あ

きき

あ

きき

あ

きき

あ

あ

きき

あ

あ

きき

あ

あ

きき

あ

あ

あ

きき

あ

如... 皇... 年... 丁...

... 皇... 年... 丁...

... 皇... 年... 丁...

... 皇... 年... 丁...

... 皇... 年... 丁...

... 皇... 年... 丁...

... 皇... 年... 丁...

... 皇... 年... 丁...

... 皇... 年... 丁...

... 皇... 年... 丁...

... 皇... 年... 丁...

... 皇... 年... 丁...

... 皇... 年... 丁...

... 皇... 年... 丁...

... 皇... 年... 丁...

... 皇... 年... 丁...

... 皇... 年... 丁...

... 皇... 年... 丁...

... 皇... 年... 丁...

... 皇... 年... 丁...

... 皇... 年... 丁...

... 皇... 年... 丁...

カクニハ早クハ海軍の発展

カクニハ早クハ海軍の発展

カクニハ早クハ海軍の発展

カクニハ早クハ海軍の発展

カクニハ早クハ海軍の発展

カクニハ早クハ海軍の発展

カクニハ早クハ海軍の発展

カクニハ早クハ海軍の発展

カクニハ早クハ海軍の発展

カクニハ早クハ海軍の発展

カクニハ早クハ海軍の発展

カクニハ早クハ海軍の発展

カクニハ早クハ海軍の発展

カクニハ早クハ海軍の発展

カクニハ早クハ海軍の発展

カクニハ早クハ海軍の発展

カクニハ早クハ海軍の発展

カクニハ早クハ海軍の発展

カクニハ早クハ海軍の発展


~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

眼よらん時くらりて  
~~~~~

はばたき遊仙窟ユセ~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~


いんいんやうん くら〜〜き

あ〜〜あ〜あ〜 けいりほの

入るの御目や

人よをりき フモシボシ 善門品ニ或被レ悪人逐チ

とくつとくも フクシ 横死シや ヤクシ 茶師シ 治シ 九ツの

横死あり

西車ニをりき ク 后ニをりきのもの

〜の〜

ま〜〜ま〜ま〜

う〜〜う〜う〜 ク の屋ニを

ま〜〜ま〜ま〜

い〜〜い〜い〜 ク 物ニを

ら〜〜ら〜ら〜 ク 女ニとレ死シてレた

く〜〜く〜く〜 ク 死ニ入リてレた

う〜〜う〜う〜 ク 罪ニとレ分カて

かおるク 前ニへテ 換レてレた

あかう海 僧ノあふレた

う〜〜う〜う〜 ク 心ニを

う〜〜う〜

人よをりき

わりのよれ 変化ニあリしキ

明和御書

五

あつきの人のと 母の居るまじい女と云く

あつきの人のと 浮舟の葬送と

あつきの人のと 車と居るまじい

あつきの人のと 浮舟の葬送と

あつきの人のと 車と居るまじい

あつきの人のと 浮舟の葬送と

あつきの人のと 車と居るまじい

あつきの人のと 浮舟の葬送と

あつきの人のと 車と居るまじい

あつきの人のと 浮舟の葬送と

あつきの人のと 車と居るまじい

あつきの人のと 浮舟の葬送と

あつきの人のと 車と居るまじい

あつきの人のと 浮舟の葬送と

あつきの人のと 車と居るまじい

あつきの人のと 浮舟の葬送と

あつきの人のと 車と居るまじい

あつきの人のと 浮舟の葬送と

あつきの人のと 車と居るまじい

あつきの人のと 浮舟の葬送と

あつきの人のと 車と居るまじい

明和御書 卷五十三

五

夫人 げは悉皆竹矢乃菰のうや非

とゆへう時のふ〜くまきり

ゆひのり乃菰 くや非乃把路のふ

や一方家の竹矢らふ〜りまじり

このあ〜 俵初のぬや

菰ひよ〜れと 尾末乃ゆり

昔乃〜ま〜わ〜り 乃海

ひいひ〜い〜も〜り〜ん 浮舟乃ゆり

のり乃芳の 葉子地を正和の地取

ふ〜ま〜ま〜ま〜の〜ゆ〜り〜ん〜と〜ま〜り〜と〜句

な〜ゆ〜ん〜と〜

ゆいゆいゆいゆいゆい ゆいゆいゆいゆい

ゆいゆいゆいゆいゆい

おののあ〜 小燈の尾よは〜り

人まのゆ

ゆゆゆゆゆゆ 尾末の浮舟のゆ

ゆゆゆゆゆゆ 浮舟乃ゆり

ゆゆゆゆゆゆ 尾末乃ゆり

ゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆ 尾末乃ゆり

ゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆ 尾末乃ゆり

あつていふらん

おののち

さあ〜いふらん

おののち

おののち

おののち

おののち

おののち

おののち

おののち

おののち

おののち

おののち

おののち

おののち

おののち

おののち

おののち

おののち

おののち

おののち

おののち

おののち

おののち

おののち

おののち

おののち

おののち

おののち

おののち

うらなひも 中おの頃し

おろしよも 昔の頃じと先

よもひよも 始りかまし

しよしよも 毎事よもし

あしよも ありけり風しりかむび

いしよも ありけり風しりかむび

あしよも ありけり風しりかむび

あしよも ありけり風しりかむび

あしよも ありけり風しりかむび

あしよも ありけり風しりかむび

あしよも ありけり風しりかむび

あしよも ありけり風しりかむび

あしよも ありけり風しりかむび

あしよも ありけり風しりかむび

あしよも ありけり風しりかむび

あしよも ありけり風しりかむび

あしよも ありけり風しりかむび

あしよも ありけり風しりかむび

あしよも ありけり風しりかむび

あしよも ありけり風しりかむび

あしよも ありけり風しりかむび

對面

昔よららるるをよのし
 みるにやむか
 おんちかきかよらるるに
 ちかちかちかちかちかちか
 人よらるるをよのし
 みるにやむか
 ちかちかちかちかちかちか
 人よのしをよのし
 みるにやむか

秋風吹きまはるる
 葉のしるしをよのし
 みるにやむか

ておころらるるに
 みるにやむか
 ちかちかちかちかちかちか
 人よらるるをよのし
 みるにやむか
 ちかちかちかちかちかちか
 人よのしをよのし
 みるにやむか
 ちかちかちかちかちかちか
 人よらるるをよのし
 みるにやむか
 ちかちかちかちかちかちか
 人よのしをよのし
 みるにやむか

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

おのり 中おのり 中おのり

おのり 中おのり 中おのり

おのり 中おのり 中おのり

おのり 中おのり 中おのり

おのり 中おのり 中おのり

おのり 中おのり 中おのり

おのり 中おのり 中おのり

おのり 中おのり 中おのり

おのり 中おのり 中おのり

おのり 中おのり 中おのり

おのり 中おのり 中おのり

おのり 中おのり 中おのり

おのり 中おのり 中おのり

おのり 中おのり 中おのり

おのり 中おのり 中おのり

おのり 中おのり 中おのり

おのり 中おのり 中おのり

おのり 中おのり 中おのり

おのり 中おのり 中おのり

おのり 中おのり 中おのり

おのり 中おのり 中おのり

おのり 中おのり 中おのり


~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~


ちう海さるるしうら

香頂の法所のまじ

しうらうはまよ

修教の

ひんしうはまよ

居るまよとまよのまよ

とまよまよまよ

こらおらまよまよ

修教のまよ

しうら

修教の

あま

修教の

まのまよ

修教のまよ

まよ

修教の

あま

修教の

あま

修教の

あま

修教の

あま

あま

修教の

あま

修教の

あま

あま

修教の

あま

あま

あま

あま

あま

君乃爲し形の人まはせりま

ら海ありま 中納の類し

いしりしり 中納の類し

いしりしりあはれそし

いしりしりい 髪乃そいしりい

そいしりしりいしりい

まのいしりいいあ 中納の類し

よのいしりい 中納の類し

いしりしりいいしりい 古事志

いしりしりいいしりい

まのいしりい 兄乃そいしりい

びしりい

いしりい 君乃親いしりい

いしりい 中納の類し

いしりい 中納の類し

いしりい 君乃親し

いしりい 故せりいしりい

いしりい 中納の類し

いしりい 君乃親し

いしりい 君乃親し

いしりい 中納の類し

いしりい 花乃親し

田中

九三

ておとまり

ゆえに

きよなること

年々

兼九七歳也

きよなること

自去年の

乃事

うらやま

落句を面白

山室乃

始末は

きよなる

君も乃為らるる

あつさり

兼、くも自れ

ふよ

後継

こそおとまり

一任乃るよ

かき

人君も乃が

ひさ

い

君も

ひさら

死を乃死

乃母とわらわをさるる時

乃か

年月

君も乃親

い

え

人君も乃の

あ

き

心

いかにのまゝにさし給ふはまはれは 浮舟

すまはれ

なまはれはまはれは 織

いかにのまゝにさし給ふはまはれは

いかにのまゝにさし給ふはまはれは

いかにのまゝにさし給ふはまはれは

いかにのまゝにさし給ふはまはれは

いかにのまゝにさし給ふはまはれは

いかにのまゝにさし給ふはまはれは

いかにのまゝにさし給ふはまはれは

いかにのまゝにさし給ふはまはれは

いかにのまゝにさし給ふはまはれは

いかにのまゝにさし給ふはまはれは

いかにのまゝにさし給ふはまはれは

いかにのまゝにさし給ふはまはれは

いかにのまゝにさし給ふはまはれは

いかにのまゝにさし給ふはまはれは

いかにのまゝにさし給ふはまはれは

いかにのまゝにさし給ふはまはれは

いかにのまゝにさし給ふはまはれは

いかにのまゝにさし給ふはまはれは

いかにのまゝにさし給ふはまはれは

そのいよらどそはしき 中文の御用

うちけしき 大工の御用

ついでにの御用

あつち

たしき 中文の御用

あつち 中文

の御用

あつち

あつち 中文の御用

あつち 中文の御用

あつち

あつち 中文の御用

あつち

あつち 中文の御用

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

とららるるまひひえて

空海の院 平号院

ららまき 所方乃美三院

この人も 浮舟ららまき

あまのの 花鳥よふか三院又空海

ららまきしし空海雅子乃披^ヲし

てらまひよけり事おひあまうま

朱空海雅子らら花鳥乃披^ヲし

三月^{ニツキ}ららまき

傍^{ワキ}のんはまき

月^{ツキ}のまのららまき

海^{ウミ}のまのららまき

出家^{シュツガ}のまのららまき

とららまき 華^{ハナ}のまのららまき

夏^{ナツ}のららまき 夏^{ナツ}のららまき

くお海^{ウミ}のまのららまき 傍^{ワキ}のららまき

障^{セキ}とあまのららまき

お海^{ウミ}のららまき 華^{ハナ}のまのららまき

はらまき 出^デのららまき

羨乃爲る形

羨乃爲る

おろちりり

信教乃ん

おろちりり

信教乃ん

おろちりり

信教乃ん

おろちりり

信教乃ん

おろちりり

信教乃ん

おろちりり

信教乃ん

おろちりり

信教乃ん

おろちりり

おろちりり

おろちりり

おろちりり

信教乃ん

おろちりり

おろちりり

信教乃ん

おろちりり

信教乃ん

おろちりり

信教乃ん

おろちりり

おろちりり

おろちりり

信教乃ん

おろちりり

信教乃ん

おろちりり

信教乃ん

あはれおほえおほえおほえおほえ

あはれおほえおほえおほえおほえ

あはれおほえおほえおほえおほえ

あはれおほえおほえおほえおほえ

あはれおほえおほえおほえおほえ

あはれおほえおほえおほえおほえ

あはれおほえおほえおほえおほえ

あはれおほえおほえおほえおほえ

あはれおほえおほえおほえおほえ

あはれおほえおほえおほえおほえ

あはれおほえおほえおほえおほえ

あはれおほえおほえおほえおほえ

あはれおほえおほえおほえおほえ

あはれおほえおほえおほえおほえ

あはれおほえおほえおほえおほえ

あはれおほえおほえおほえおほえ

あはれおほえおほえおほえおほえ

あはれおほえおほえおほえおほえ

あはれおほえおほえおほえおほえ

あはれおほえおほえおほえおほえ

あはれおほえおほえおほえおほえ

海に舟を乗せしむるは海に舟を乗せしむるは

海に舟を乗せしむるは海に舟を乗せしむるは

海に舟を乗せしむるは海に舟を乗せしむるは

海に舟を乗せしむるは海に舟を乗せしむるは

海に舟を乗せしむるは海に舟を乗せしむるは

海に舟を乗せしむるは

海に舟を乗せしむるは海に舟を乗せしむるは

海に舟を乗せしむるは海に舟を乗せしむるは

海に舟を乗せしむるは海に舟を乗せしむるは

海に舟を乗せしむるは海に舟を乗せしむるは

海に舟を乗せしむるは海に舟を乗せしむるは

此一部永正拾年受庭訓畢彼聽書詞短心
不足更非可令外見不能清書送教年半為
蠹魚之巢爰或人難去所望之間如形加清
書終一部功參差漏脫之事繁多欵重而可
加潤色而已

二十時大永弟八仲春十九日

此聞書全部先年所令書寫也一本不慮失
火無念重而所望之由懇切之嚴命難照止
之間卒尔馳秃筆狼籍無極曾以不可他見
者也

天文甲午曆千秋佳節終功畢

亞三台都督廊 在判

編 虎坐石上

